

事務事業評価表 平成23年度

政策 安心を感じる保健・医療・福祉の充実  
 施策 子育て環境の充実  
 基本事業 未就学期児童への支援

事業名 **認定こども園施設整備事業**

[0919]

部名	健康福祉部	事業開始年度	平成21年度	実施計画事業認定	非対象
課名	子育て支援室保育課	事業終了年度	平成22年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>北海道安心こども基金を活用し、幼保連携型認定こども園開設のため施設整備を実施する学校法人</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>待機児童解消のための保育園の定員拡大及び子育て支援機能の拡大を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>江別市認定こども園施設整備事業補助金交付要綱により保育園設置に必要な改修等経費の一部を補助する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	北海道安心こども基金を活用し、施設整備を実施した学校法人数	箇所		1	1	
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円		9,229	52,038	
活動指標2						
成果指標1	拡大された定員数	人		14	21	
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	9,229	52,038	0
正職員人件費 (B)		千円	0	0	6,448	0
<b>総事業費 (A) + (B)</b>		<b>千円</b>	<b>0</b>	<b>9,229</b>	<b>58,486</b>	<b>0</b>

費用内訳	
22年度	負担金 補助及び交付金 52,038千円

## 事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	待機児童解消のため保育園の定員拡大を図ることを目的とし、市内で幼保連携型認定こども園を開設するために、北海道安心こども基金を活用し施設整備を実施する学校法人に対して、保育園設置に必要な改修等経費の一部を補助する。(基金補助基準額の4分の3を補助) なお、安心こども基金事業は平成20年度から22年度の時限措置である。	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

## 22年度の実績による事業課の評価(7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

義務的事務事業  
妥当である  
妥当性が低い

理由・  
根拠は?

待機児童解消に向けた対応とともに、認定こども園等の新たな子育てニーズに対応するための施設の整備に対して補助金として支援することは妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

貢献度大きい  
貢献度ふつう  
貢献度小さい  
基礎的事務事業

理由・  
根拠は?

年度内における3歳未満の待機児童が、例年増加する傾向にあり認定こども園の開設による定員枠の拡大を図ることにより待機児童の解消とともに子どもを安心して育てることのできる体制を整備することは未就学期児童への支援として貢献度は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか?

あがっている  
どちらかといえばあがっている  
あがらない

理由・  
根拠は?

平成22年度は保育所の需要が比較的多く認定こども園「あけぼの」の開設により待機児童の解消には至らなかったが、同施設には定員どおり入所するなど待機児童の圧縮に繋がり一定の成果があった。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

成果向上余地 大  
成果向上余地 中  
成果向上余地 小・なし

理由・  
根拠は?

国では、現在「子ども子育て新システム」の構築・導入に向け検討が進められており、その動向を見極めながら、本市の「江別市立保育園の整備と運営等に関する計画」を進めていくことにより成果が向上する可能性がある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

ある  
ない

理由・  
根拠は?

既存の北海道安心こども基金の補助基準により補助金を算定するため削減は難しい。